

きよら

TOYAMA CITY HOSPITAL MAGAZINE

Vol.
121
2026.7



富山市民病院マガジン「きよら」

題名の「きよら」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心的美しさを表し、柔らかくやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。

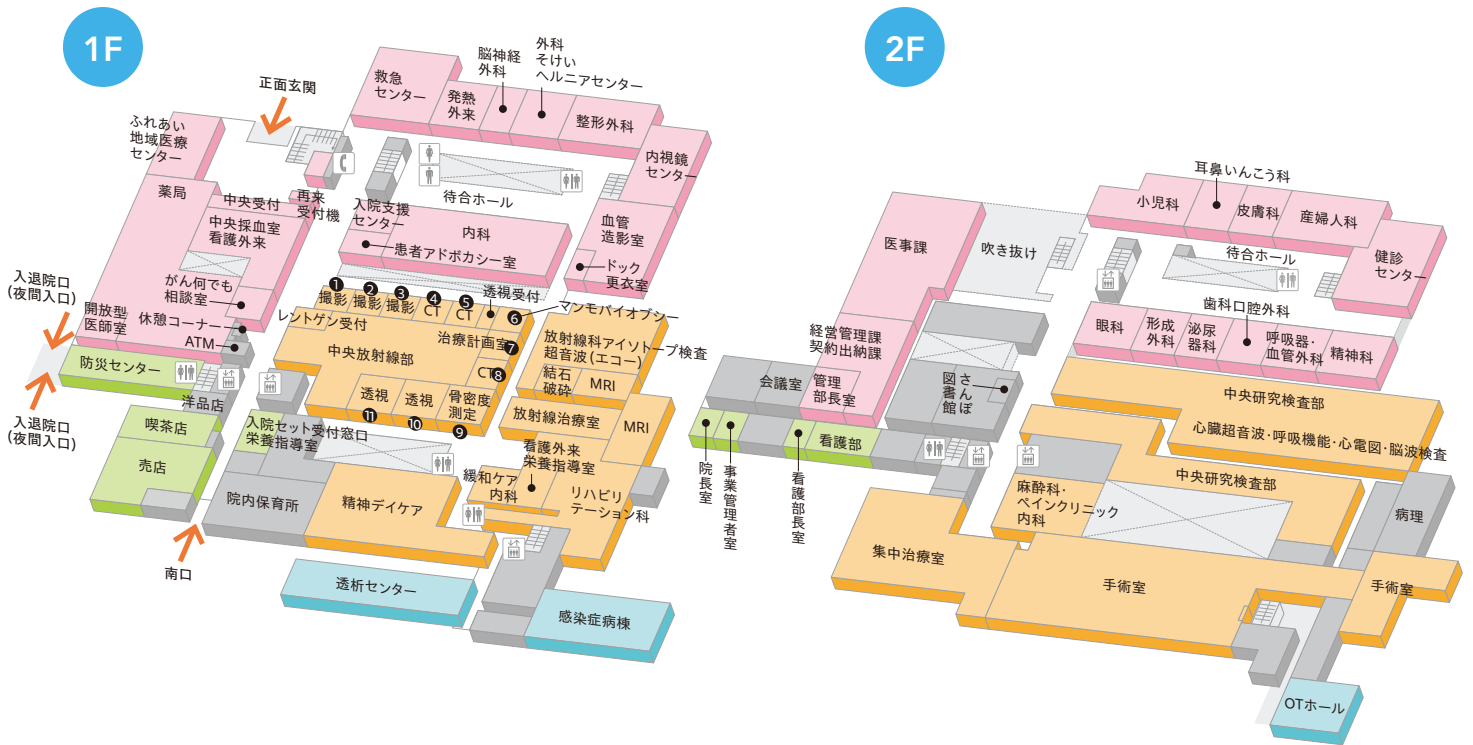


[特集 *Feature* 01] 病院事業局 新体制スタート —特性を伸ばし、連携を強固に—



[特集 *Feature* 02] 富山市まちなか診療所の 役割と在宅医療 —いつもの暮らしの中にある医療—

Floor Guide 〈案内図〉



	外来診療棟	西病棟	東病棟	南病棟		
8F		心臓リハビリテーション室	病室 東801~827		8F	
7F		病室 西701~723	病室 東701~725		7F	
6F		病室 西601~621			6F	
5F		病室 西501~526	病室 東501~527		5F	
4F		病室 西401~426	4階リハビリテーション 治療支援センター	病室 南401~425	4F	
3F	講堂 図書室 医局	病室 西301~320	病室 東301~325 外来治療室	病室 南305~321	3F	
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課	事業管理者室 院長室 看護部長室 看護部	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 手術室 感染防止対策室	活動療法棟 OTホール	2F	
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 中央採血室 看護外来 薬局 がん何でも相談室 開放型医師室	救急センター 発熱外来 脳神経外科 外科・消化器外科・乳腺外科 そけいヘルニアセンター 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室 入院支援センター	売店 喫茶店 防災センター 栄養指導室	レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科 看護外来 栄養指導室	感染症病棟 透析センター	1F
B1F		薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科		B1F	



Vol.

121

2026.7

Contents

「特集
Feature
01」

病院事業局 新体制スタート

—特性を伸ばし、連携を強固に—

【インタビュー】

富山市病院事業管理者 石田 陽一 医師
富山市民病院 院長 林 茂 医師
富山まちなか病院 院長 上山本 伸治 医師
富山市まちなか診療所 所長 三浦 太郎 医師

2

「特集
Feature
02」

富山市まちなか診療所の 役割と在宅医療

—いつもの暮らしの中にある医療—

【インタビュー】

富山市まちなか診療所 三浦 太郎 所長
富山市まちなか診療所 渡辺 一海 医長
富山市まちなか診療所 並河 大器 医師
富山市まちなか診療所 砂原 貴代美 副主幹（看護師）

8

Topics

- 「看護の日・看護週間」のイベントを開催しました
- 小学生ふれあい看護体験

13

発行

富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511
富山市今泉北部町2-1
TEL 076-422-1112
FAX 076-422-1371

ウェブサイト



tch.toyama.toyama.jp

「特集

Feature
01

」

病院事業局 新体制スタート

— 特性を伸ばし、連携を強固に —

富山市の病院事業が新たな体制でスタートした。

富山市民病院に林茂院長、富山まちなか病院に上山本伸治院長が就任。

急性期・回復期・在宅という三つの機能をもつ施設が、

いよいよ一体となって地域を支える時代へ。

富山市の病院事業管理者の石田陽一医師、

富山市まちなか診療所の三浦太郎所長を交え、

新体制の展望と地域医療の未来を語ってもらった。



Interview

新院長就任

Q. 林院長のこれまでのご経歴と専門分野を教えてください。

林院長 富山市民病院には1995年に赴任し、以来「一筋」30年を超えました。専門は脳神経内科で、脳卒中や髄膜炎などの神経救急から、頭痛・めまい・しびれといった一般的な神経疾患、パーキンソン病まで幅広く診てきました。近年は認知症の患者さんも増えていて、抗アミロイドベータ抗体薬など最新の治療にも力を入れています。

富山市民病院
院長
はやし 林
しげる 茂 医師



Q. 院長就任をどのように受け止めていますか。

林院長 物価高騰や診療報酬の問題など、正直、なかなか難しい時期での就任です。「火中の栗を拾う」という言葉がありますが、まさにそういう役どころ

かな(笑)。それでも、「やらなければいけない」という使命感で臨んでいます。

Q. ご自身のリーダー像についてはいかがでしょうか。

林院長 対話を重視して、職員や同僚の皆さんからしっかりと意見を引き出して、組み上げていくやり方が自分には合っていると思っています。2017年から医療安全に携わり、2020年からは副院長として6年間、様々な現場の声と向き合ってきました。その経験の中で、話を聞くことの重要性を改めて学んだ気がします。職員が自由に意見を言える環境がなければ、いい仕事はできない。一人ひとりが能力を発揮できるよう、働きやすい職場をつくっていききたいと考えています。

富山市民病院の強みと課題

Q. 現在の富山市民病院の特徴をどう捉えていますか。

林院長 まず挙げたいのが救急です。「断らない救急」を合言葉に、救急車をほとんど断らずに受け入れています。富山市では救急搬送までの時間が全国的にも短く、一次・二次救急の体制がしっかりとできている。たらい回しが当たり前の地域もある中で、実はとても恵まれたことなんです。

また、昨年8月からは従来の手術より安全性が高いロボット支援手術を導入しました。前立腺がんなどの泌尿器科領域を中心に対象が広がっており、選ばれる患者さんも増えています。さらに無痛分娩、低線量CTによる肺がんの早期発見、災害医療への取り組みなど、様々な面で地域に貢献できていると感じています。

課題としては、施設の老朽化、同様の役割を持つ病院との競合、そして人口減少による患者数の変



富山市民病院内観



富山市民病院外観

化などがあります。これらをしつかり見据えながら進んでいかなければなりません。

Q. 上山本院長のご経歴と専門分野をお聞かせください。

上山本院長 1993年に金沢大学を卒業し、北陸3県の関連病院で研鑽を積んできました。専門は消化器内科です。富山とは縁が深く、30年前に富山市民病院で研修医として半年過ごしたのを皮切りに、富山県内の病院を数多く経験し、10年前から富山市民病院に勤務しました。4月から富山まちなか病院の院長に就任しています。



Q. 院長就任の意気込みをお聞かせください。

上山本院長 これまで急性期医療を主に担ってきたので、回復期という新たな分野に向き合うことになりました。急性期を終えた患者さんを、いかにスムーズに介護あるいは自宅につなげるか。富山市ま

ちなか診療所の三浦先生とも連携しながら、その役割をしつかり果たしていきたいと考えています。

Q. ご自身のリーダー像は。

上山本院長 一番大切にしているのは、まずは「自ら動く」こと。言葉だけでなく、率先して行動すること。チームを引っ張っていく。それがいまの自分の方針です。



富山まちなか病院の強みと課題

Q. 富山まちなか病院の特徴をどう捉えていますか。

上山本院長 なんとといっても、ベテランの医師陣です。30年以上の経験を持つ先生方が、患者さんの立場に立って回復期医療を担ってくださっている。急性期とはまた違う、密な関係性の中で患者さんに向き合える環境が整っています。また、富山市まちなか診療所と連携して、急性期を終えた方のスムーズな介護移行や自宅復帰を支援できるのも大きな強みです。



課題は、急性期病院からの連携をさらにスピードアップさせること。また、患者さんやご家族に在宅医療の選択肢をもっと知ってもらい、心理的なハードルを下げていくことも重要だと考えています。三浦先生とは定期的に直接顔を合わせて話し合いながら、その連携を深めているところです。

三施設の連携で富山の医療を支える

Q. 改めて、三施設それぞれの役割を教えてください。



富山まちなか病院内観

石田管理者 基本的な考え方はシンプルです。富山市民病院が急性期・高度急性期を担い、富山まちなか病院が回復期から地域包括ケアをカバーし、富山まちなか診療所が在宅医療を支える。この三つが連携することで、患者さんは住み慣れた地域でシームレスに医療を受け続けることができます。将来的には、ほぼ一体化した状態で地域を包み込めるような体制を目指しています。

もう一つ重要なのが、富山まちなか診療所の「かかりつけ医」としての機能です。単に訪問診療だけでなく、病院でも対応できる総合診療的な役割を、富山の都心部で展開できる。こういう形を「アーバン型」と呼んでいますが、地方の総合診療として全国でも注目される取り組みだと思っています。



Q: 一つの病院で完結させない理由は何でしょうか。

石田管理者 昔はそれを目指していた時代もありました。でも、医療の高度化・専門化が進む中で、分業して連携するほうが患者さんにとっていい医療が届くということが分かってきました。さらにこ



富山市民病院事業管理者
いしだ 石田 陽一 医師

れから高齢化が進むと、急性期から発症するというよりも、もともといろんな病気を抱えている方が少し悪くなる、というパターンが増えてきます。そういう方を早く感知して早期に介入し、また生活に戻っていただく。そのサイクルをうまく回すには、この三施設の連携が欠かせないんです。

その人の状態に合わせて受け渡す医療

Q: 実際に患者さんはどのような流れで三施設を移っていくのでしょうか。

上山本院長 急性期で入院された後、在宅にその

まま戻れない患者さんが富山まちなか病院に来られます。そこでリハビリを中心にADL(日常生活動作)を上げて、自宅に帰れる状態を目指す。それが富山まちなか病院の役割です。さらに自立が難しい場合は、適切な介護サービスへの橋渡しもしています。これまでは電話やFAXでやり取りしていた部分が、情報共有ツールを使うことで、リアルタイムかつ漏れなくできるようになってきた。それが連携のスピードアップにつながっています。

三浦所長 私のイメージでは、富山まちなか診療所は「整える」役割です。様々な病気を抱えながらも、ちょうど良い状態で自宅で過ごし続けられるように支えていく。それでも対処しきれないくらい重い状態になったときには、富山市民病院や富山まちなか病院につなぐ。

富山まちなか診療所
所長

みうら
三浦

たろう
太郎
医師



逆に、病院に通っておられる患者さんでも、在宅医療の目で見たほうがいい方もいらっしゃる。そういう方をご紹介いただけると、お互いにとってもプラスになると思っています。

林院長 急性期は、突然起きた重い病気をしっかりと治療するところです。しかしながら、退院後の生

活のことを考えると、日常生活ができる能力を回復させてくれる富山まちなか病院、そして在宅で支えてくれる診療所の存在が本当に心強い。富

山市民病院はどうしても病気の治療に比重が置かれてしまいますが、患者さんの生活という視点を持つてくれる施設が一つの組織の中に揃っているというのは、大きな安心感です。

上山本院長 以前10年間、富山市民病院と一緒に働いていた先生方がいるので、信頼関係があつて安心して患者さんを送ることができます。三浦先生とは2週間に一度は直接顔を合わせて、うまくいっていること、解決すべき問題を話し合っています。急性期から在宅まで、十分な連携が取れる環境にあるというのは本当に大きいですね。

地域づくりの一翼を担う

Q. 公立病院だからこそ担うべき役割とは何でしょうか。

石田管理者 「政策医療をやる」というのが公立病院の役割と言われますが、その定義は実は難しいんです。私が強く思うのは、医療は地域を支える



ものだという。富山市民病院のミッションに「医療を通じて豊かな地域づくりに貢献する」とありますが、これには深い意味があります。人が住み続けるためには、医療と教育が根本にある。公立病院がその一翼を担うことで、定住人口を守り、都市の活力を維持していくことができる。

富山まちなか病院について言えば、街中から開業医が減っていく中で、かかりつけ医としての機能を担う存在になってきている。これからもその傾向は続くでしょう。採算度外視ではいけません、公立だからこそできる役割があると思っています。



これからの地域医療

Q. 高齢化が進む中で、地域医療はどう変わっていくと思いますか。

林院長 一人の患者さんが複数の疾患を抱えるケースが増えます。また地域によっては人口が減り、医療機関が立ち行かなくなるところも出てくるでしょう。そういう中で、単一の病院だけで地域を支えることは難しい。異なる機能を持つ三

施設が連携して地域を守っていく体制が、これからの時代に本当に求められていると感じています。それがたまたま富山市という一つの組織の中に揃っている。これは非常に恵まれたことだと思えます。

上山本院長 医療は

急性期だけではなく、回復期・在宅それぞれがしっかりと役割を果たすことで、地域の方が安全・安心に暮らし続けられる。それぞれの機能が充実してこそ、本当の意味での地域医療が成り立つと考えています。

三浦所長 高齢者のみならず、様々な背景を持った方が増えてきています。私たち

はかかりつけ的に生活を整えながら、急性期の治療と両輪で動いていく。老老介護や一人暮らしの方も増え、家で過ごすのが難しいケースも出てきています。家でなくても安心して過ごせる地域をつくっていききたい。富山に住んでいてよかったと思えるような地域にしていきたいというのが、正直な気持ちです。



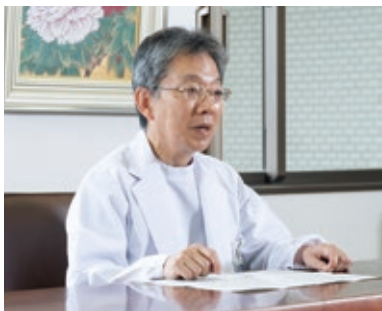
時代に合わせた体制づくり

Q. 最後に、市民の皆さんへメッセージをお願いします。

石田管理者 富山市の市民の皆さんは、全国的に見ても質の高い医療を受けられる環境にあります。救急搬送の時間の短さ、たらい回しのない体制、一次から三次までのシームレスな救急医療。これを当たり前と思っているかもしれないですが、他の地域ではそうではないことも多い。この環境を維持していくのは簡単では

ありませんが、富山市の病院事業として先回りして体制を整えてきました。これからも安心していただけるよう、全力で取り組んでいきます。

林院長 富山市民病院は救急・急性期・専門医療をしっかりと担える病院です。「こんなことで受診していいのか」と遠慮せず、気軽に頼っていただければ存在でありたいと



思っています。

上山本院長 富山まちなか病院では、急性期を終えた後のリハビリや回復期医療をしっかりと担います。「安心して任せてほしい」という気持ちで、一人ひとりの患者さんの自宅復帰を支えていきます。

三浦所長 富山の人は本当に家が好きだと感じます。「この状態では家は無理かな」と思われたときにも、ぜひ一度相談してください。富山市まちなか診療所だけでなく、在宅を支える診療所も富山市内で増えてきています。日本の中でも質の高い在宅医療が受けられる地域になってきている。富山に住んでいてよかった、と思えるように、これからも一緒に取り組んでいきたいと思えます。



「特集
Feature
02
」

富山市まちなか診療所の

役割と在宅医療

—いつもの暮らしの中にある医療—



Interview

訪問診療を軸に、通院が難しいすべての市民の暮らしに寄り添う「富山市まちなか診療所」。最前線で患者と向き合う3名の総合診療医と看護師に、在宅医療の今とこれからの聞いた。

富山の在宅医療を底上げする

Q. 富山市まちなか診療所とは、どのような役割を担う場所なのでしょう。

三浦所長 富山市の在宅医療を振興する目的で設立された診療所です。通院が難しい方のご自宅に伺って診療を行う「訪問診療」が中心ですが、それだけではなくありません。開業の先生が不在のときのサポートをしたり、保健

みうら 三浦
たろう 太郎
所長



師さんやケアマネジャーの方々と連携しながら、富山市全体の在宅医療を底上げしていく役割も担っています。富山市内であれば場所を問わず対応しているのも特徴のひとつです。

もうひとつ大きいのが、「ブラスターの役割」です。富山市には40万人の市民がいます。私たちがですべてを支えることはできません。だからこそ、民間の先生方にも在宅医療に関わっていただくような土壌をつくっていく。「なかなか大変そうだ」と思っていた先生たちが、「やってみようか」と思ってくれるようなきっかけの存在でありたいと考えています。

渡辺医長 公立の診療所であるという点も、当院の大きな特徴です。民間の診療所ではどう

かずひろ 一海
医長



しても対応が難しいような、医療的に重い状態の患者さんも含めて引き受けていく責任があります。また、行政と連携しながら動くことが

できるのも公立ならではです。単なる一つの医療機関ではなく、地域の医療の仕組みそのものの一環として機能しているという感覚があります。私たちのスタッフが総合診療医で構成されていることも特色で、幅広い疾患に対応できる力があります。

Q. 設立の背景には、どのような課題があったのでしょうか。

三浦所長 診療所設立前は富山市では在宅で最期まで過ごす方の割合が全国平均よりもだいぶ低い状態でした。一方で、富山市の調査では自宅最期まで過ごしたいという住民が半数程度いることが分かっていました。そのギャップを埋めていく必要があり、在宅医療振興のブラスター役として診療所が設立されました。

砂原副主幹 私はずっと病院で働いてきたのですが、病院の中にとどまらず、どうしても「患者さん」という視点でしかその方を見られなかったという気がしています。在宅に関わるようになって初めて、その人がどんな家に住んでいて、どんな家族がいて、どんな日常を送っているのかが見えてくる。

すなはら きよみ 砂原 貴代美
副主幹(看護師)



「病院の患者さん」ではなく、「ひとりの人として生きている方」だということに、改めて気づかされました。病院では医療が中心になりますが、在宅では生活が中心です。その違いは本当に大きいと感じています。



「通えない方」すべてが対象

Q. 在宅医療の対象となるのは、どのような方ですか。

渡辺 医師 基本的には、ご自身で病院に通うことが難しい方すべてが対象になります。車いすや介護タクシーでも通院が難しい方、全身の機能が低下して移動するだけで大きな身体的負担がかかる方、そして自宅で最期まで過ごしたいという強いご意向をお持ちの方などです。当院は公立診療所として、特に民間のクリニックが対応に苦慮されるような重症の患者さん、要介護3以上の方やがんの末期の方、特別な医療的処置が必要な方を積極的に受け入れています。

三浦 所長 富山は車社会なので、かなり体が弱っていても介護タクシーやストレッチャーで頑張って病院に通い続ける方が少なくありません。都市部と比べてもその傾向は強いかもしれません。そうした方を見ていると、「在宅医療に移ったらずいぶん楽になるのでは」と感じる場合があります。通院すること自体がその方の体に大きな負担をかけているケースも少なくないのです。多くの患者さんは、病院の連携室やケアマネジャーさんを通じてつながることが多いです。大きな病院にしかかかりつけがなかった方が、退院後に在宅医療へ移行されるパターンも多くあります。

砂原 副主幹 重症な方だけが対象ではないということも、ぜひお伝えしたいと思っています。経済的な事情などの社会的な困難を抱えていて、なかなか病院に行けないという方も実際には少なからずいらっしやいます。そうした方の生活を安定させながら、医療を継続していくとかたちの訪問診療も、私たちの大切な役割のひとつです。いろいろな家庭があって、いろいろな事情がある。そういう方々が健やかに暮らし続けられるように、一緒に考えていけるのが在宅医療だと思っています。

生活の中に医療が入っていく

Q. 病院での医療と在宅医療は、どこが大きく違いますか。

三浦 所長 一番の違いは、「医療が中心か、生活が中心か」ということだと思います。病院では医療の場に患者さんがいますが、在宅ではその人の生活の場に医療が入っていく。たとえば、その家には畑があったり、猫がいたり、長年大切にしてきたものがあったり、その人自身の歴史があります。そういうものに囲まれながら過ごせるのが在宅医療の価値だと感じています。

渡辺 医師 好きなお酒を飲んだり、好きな時間に行きなことができたりと、病院では制限されることも自宅なら続けられる。それがその人の「生きが

い」になっていることもあります。患者さんの人生観や価値観が、そのまま医療の方針に影響してくるというのも在宅医療の特徴です。

砂原 副主幹 視点が根本的に違うんです。病院での医療は医療が主役ですが、在宅医療ではその人の生活が主役で、私たちはその中にお邪魔させていただく立場です。お酒も動物も温泉も、「その人の生活」のひとつ。それを豊かに守りながら、一緒にその生活を作っていくというのが、在宅医療の目指すところだと私は思っています。お酒はダメ、動物はダメと言わなくていい。病院とは全く違う世界です。



Q. 在宅医療は多職種で支えるものだと聞きます。

並河医師 私は今年の4月から富山市まちなか診療所に来たばかりで、それ以前は病院での訪問診療を経験してきました。在宅で一番感

じるのが、多職種との密な連携の必要性です。病院では仕組みの中で動けばある程度回っていくのですが、在宅では医師が直接、訪問看護

看護師や薬局の薬剤師、ケアマネジャーと連絡を取り合いながら進めていく必要があります。「手配する」というよりも、みんなで相談しながら、向こうから提案が来ることもあれば、こちらが対応することも。医師だけでは面白い医療はできないと感じています。大変といえば大変ですが、そこがむしろやりがいでもあります。

富山市まちなか診療所に来てからは、顔なじみのケアマネさんたちの多さにも驚いています。私はまだ来たばかりなので、三浦院長が「あの人は〇〇さんだよ」と教えてくれながら回っている状態です（笑）。それが病院の診療と訪問診療との一番の違い



なみかわ たいき
並河 大器
医師

かもしれません。

三浦所長 当院では市内全域を対象にしているため、その地域を支援している多職種の方々と仕事をしています。そのため、30を超える居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）や20を超える訪問看護ステーションと繋がって仕事をしています。研修会などにいくと知り合いだらけです。そんな顔の見え関係があるのは富山市まちなか診療所ならではの感じています。

並河医師 在宅医療は「難しそう」と思われがちですが、一人暮らしの方でも、実際にやってみると案外できてしまうケースもあります。反対する家族がいる場合よりも、むしろご本人の意思がはっきりしている一人暮らしの方のほうがスムーズに進むこともあるくらいです。在宅医療がどういうものか、まずは知ってもらうことが大事だと思っています。

砂原副主幹 訪問と訪問の間は、看護師や薬剤師、介護職の方々がつないでくれています。日々の情報が共有されることで、次の訪問時に適切な判断ができる。みんなですべての患者さん



見ているという感覚は、病院の医療とはまた違う充実感があります。

終末期だけではない、回復への道

Q. 在宅医療というと、終末期のイメージがあります。

三浦所長 もちろん終末期の方が多いのは事実ですが、それだけではありません。たとえば脳卒中の後遺症で動きづらくなっていた方が、本人のやる気と在宅でのリハビリの積み重ねで、だいぶ動けるようになって、食べられるようになって、やがて在宅医療を「卒業」していくケースもあります。

渡辺医長 コロナ禍では面会制限が厳しく、病院ではご家族と十分に過ごす時間が持てないという時期がありました。その頃から在宅への関心が高まり始めたように思います。今は面会制限もだいぶ緩和されましたが、それでも「家族との時間を大切にしたい」という思いから、最後の1週間だけでも家に帰ることを選ばれる方もいらっしゃいます。一度選んだら最後まで在宅でなければならぬ、というものでもありません。状況に応じて病院に戻することもできますし、まずは試してみたいという選択もあると思います。



患者さんの「幸せ」を尊重する

Q. 患者さんとの印象に残るエピソードがあれば、教えてください。

砂原副主幹 山あいの農家の一軒家に暮らすさんの末期の女性患者さんのところへ伺ったときのことです。ちょうどカメムシの時期で部屋の中を虫が飛び回っている。旦那さんが割り箸でカメムシをつまんでほ



る。旦那さんが割り箸でカメムシをつまんでほるまストープにくべながら、すぐそばのベッドで奥さまが横になっているんです。

清潔な処置室できちんと手袋をしてという、病院とはまったく逆の環境で。でもそのとき、旦那さんと奥さまの間にはごく自然な会話があり、日常がありました。医療としては決して整った環境ではなかったけれど、それがその方の生活の場だった。それを目の当たりにしたとき、「この人にとっての幸せはここにあるんだな」と感じました。

渡辺 医師 認知症の一人暮らしのおじいさん



の話です。最初、私たちが訪問しようとしても「な

んで来るんだ」とものすごく嫌がられて。でも、何

度も訪問して会話を繰り返しているうちに、少し

ずつ心を開いてくれました。「どんなことに困って

いるか」「これからどんなふうに生活していきたい

か」「そういうことをゆっくり話せるようになって、

ご家族とも思いを共有することができました。

最終的には施設に入られましたが、病院の外

では絶対にできなかったプロセスでした。直接ご本

人の暮らしの場に飛び込んで、丁寧に伺い続け

ることで初めて開ける扉がある。それが在宅医療

の醍醐味だと感じています。

三浦 所長 病院にいる

ときは、怒りっぽくて有

名だった患者さんがい

たんです。その方が在宅

に移られてしばらく

経ったある日、担当の訪

問看護師さんから「ジェ

ントルになりました

よ！」と連絡があったんです。何が起こったのかと

思ったら、少しずつ体が動くようになってきて、食

べられるようになってきて、気持ちも前向きになっ

てきたのだと。このように在宅だからこそ見えてく

るその方の本来の姿があると思います。人は環境と

関わり次第で変わる。そのことを在宅医療は教え

てくれます。



諦めず、気軽に相談を

Q. 最後に、市民のみなさんへメッセージをお願ひします。

砂原副主幹 「家に帰りたい」という気持ちがあれば、ぜひ口に出してください。いろいろな不安があると思いますが、まず医療者に伝えることが大切

です。それを実現するための方法は、一緒に考える

ことができます。

三浦 所長 富山市内であれば、どこにお住まいで

も訪問させていただきます。「うちは山間部だか

ら」「遠いから」と諦めないでください。在宅で過ご

したいという思いがあれば、ぜひ頼ってみてほしい

と思います。

渡辺 医師 「在宅は難しそう」「うちには無理だろ

う」と思い込んでしまっている方も多いかもしれま

せん。でも実際にやって

みると、できるケースは

想像より多いです。一度

選んだら最後まで続け

なければならぬもの

ではなく、状況に応じ

て病院に戻ることでも

できるので、まずは気軽

に相談していただきた

いですね。



Topics
01

「看護の日・看護週間」のイベントを開催しました



富山市民病院では、毎年、看護の日・看護週間のイベントとして「健康相談・健康チェック」を開催しています。今年度は5月12日(火)にイベントを開催し、血圧測定、酸素飽和度測定、握力測定、パンフレット配布を行いました。

イベントを通して、参加者から「相談できてよかった。」「健康に気を付けていきたい。」などのお声があり、ご自身の健康状態を知るきっかけとなったことや、看護の仕事を間近で見させていただくことで、地域の方に身近な存在だと感じてもらえる良い機会となりました。



Health Check



Topics
02

小学生ふれあい看護体験

実施日 令和8年5月18日(月)



小学生を対象に、看護の魅力を広く伝え、興味を持って将来看護の道を目指してもらえるよう、「小学生ふれあい看護体験」を実施しました。

実際に病院で使用している車椅子や歩行器を使用してもらい、医療者が患者さんへ寄り添う気持ちを実感してもらう事ができました。また、リアルな医療現場を見て医療者の役割の大切さも感じてもらえました。



☑ 実施内容

病棟・ICU・手術室・救急科の見学

☑ 体験学習

- ①AED ②身体計測
- ③車いす・ストレッチャー搬送
- ④展示

☑ 参加人数

富山市立堀川小学校

6年生 85名

ふれあい健康講座

■開催時間/各回13:30～(30分程度)

■会場/月曜:富山まちなか病院(鹿島町2丁目)

水曜:富山市まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)

金曜:富山市民病院(今泉北部町)

申し込み・参加費は不要です。会場へ直接お越しください。

※講座内容は変更になる場合がございます。

※曜日によって会場が
異なりますので
ご注意ください。

7 July

- 1 水 がん免疫療法について
- 3 金 熱中症について
- 6 月 認知症の検査と治療
- 8 水 防ごう! こどもの事故
- 10 金 大人のオムツの処方箋
- 13 月 流行している感染症を知ろう
- 15 水 がんの痛みについて
- 17 金 すい炎について
- 22 水 ★ママと赤ちゃんのための産後エクササイズ
- 24 金 転ばないための体づくりやってみようロコモ体操
- 27 月 糖尿病ってどんな病気
- 29 水 がん相談支援センター「がん何でも相談室」ってどんなところ?

8 August

- 3 月 貼付剤について
- 5 水 睡眠時無呼吸症候群の検査について
- 7 金 放射線治療医が語る放射線治療について
- 17 月 糖尿病の種類について
- 19 水 尿漏れや頻尿で困っていませんか?
- 21 金 メンタルヘルスケアについて
- 24 月 腎臓を守ろう
- 26 水 ★ママと赤ちゃんのための産後エクササイズ
- 28 金 がん治療のお薬
- 31 月 軽度認知障害

9 September

- 2 水 慢性心不全のお薬について
- 4 金 医師が語るサルコペニアとの闘い!
- 7 月 糖尿病予防のための生活のコツ
- 9 水 検査結果の見方について
- 11 金 脳卒中を予防する食事
- 14 月 「インフルエンザ」に備える! 早めの予防と手洗い・咳エチケット再点検
- 16 水 在宅でできる緩和ケア
- 18 金 傷の手当て
- 25 金 脳卒中について知ろう～10月は脳卒中月間です～
- 28 月 認知症の人とのコミュニケーション

★の講座の参加は、事前に電話をお願いします。(持ち物等をご案内します) TEL.076-422-1112 ふれあい健康講座担当まで

Basic Philosophy < 富山市民病院の基本理念 >

使命

MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して
皆様の健康を守り、
豊かな地域づくりに
貢献します。

価値観

VALUE

我々が何を大切にしていくかのキーワード

- 「信頼」安全・安心、満足、透明性
- 「思いやり」やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- 「良質」技術、知識、向上心、科学的
- 「つながり」連携、チームワーク、わかりやすさ
- 「俊敏」迅速、効率的、的確

展望

VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される
中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン[きよら] / Vol.121 : 2026年7月号

発行 富山市立富山市民病院 広報委員会
〒939-8511 富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112 FAX. 076-422-1371
<https://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立富山市民病院



日本医療機能評価機構